

目標達成計画

作成日: 令和 6年 3月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|----------------------|--|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 40 46 55 61 | 従来、各利用者の安全、快適のため、居室での手すり設置、ベッド上でのクッションの使用、車椅子や椅子の選択、座位でのクッションやバックサポート、足台の使用、歩行補助具の工夫など折々に行ってきたが、専門的な見地からの検討はなく、必ずしも最適な環境設定となっていない可能性がある。 | 利用者ごとの移乗、移動、シーティング、食事時姿勢、福祉用具の使用などを理学療法士を含めた検討によって最適なものにする。 | 1.利用者ごとの現状課題を挙げる。 2.課題の解決のための取り組みを決める。 3.一定期間、改善のための方法を実施する。期間は内容や適用状況により個々に設定する。 4.一定期間後、再評価を行う。 5.以上をPDCAサイクルとして、一定の改善または成果が見られるまで取り組む。 | 10ヶ月 |
| 2 | 56 58 61 | 生活の質の維持・改善のために利用者によっては適切な食事介助や声掛けを行う必要がある。しかし、職員によって食事介助のペースや声掛けのタイミングなどが異なるため、質の高い介護サービスを行うためには職員間の利用者の情報の共有と嚥下に対する知識と技術の向上が求められる。 | 嚥下のメカニズムや正しい食事介助や声掛けを学び、利用者に対し科学的根拠に則った介護サービスが提供できる。 | 1.利用者ごとの現状の課題を挙げる。 2.課題の解決のための取り組みを決める。 3.一定期間、改善のための方法を実施する。期間は内容や適用状況により個々に設定する。 4.一定期間後、再評価を行う。 5.以上をPDCAサイクルとして、一定の改善または成果が見られるまで取り組む。 | 10ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。